

# NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人  
長野都市経営研究所

Vol. 70

2024.AUG.

NPO法人 長野都市経営研究所

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0834 長野市大字鶴賀御所町1289-1 丸本ビル2F TEL 026-235-7911 FAX 026-235-6166 https://www.nupri.or.jp E-mail: nupri@nupri.or.jp

## NUPRI 定時総会

令和6年6月13日  
14時30分～  
ホテル国際21にて開催

# NUPRI設立30周年を迎え 心機一転、さらさらに前進する年に

去る6月13日、「第30回NUPRI定時総会」が役員・会員あわせ約40余名の出席により開催されました。

おかげさまで、今年11月、NUPRIは設立30周年を迎えます。各部署の活動も新型コロナウイルス5類移行に伴い、さまざまな取り組みが再開・活発化しており、長野の地域づくりへの責任と使命を改めて実感しているところです。

また、30年という節目に、新理事と新役員が選出されるとともに、現理事長の市村次夫氏から新理事長の鷲澤幸一氏にバトンタッチが行われ、ご挨拶をいただきました。

定時総会の後には、小布施町をはじめ長野市とも交流の深い水戸岡鋭治氏の講演会が行われ、一般の聴講者を含む約150名が耳を傾けました。続く懇親会では、水戸岡氏も参会されて和やかに親睦が図られました。

### 理事長あいさつ

#### 30周年を機に組織力を強化

市村次夫 理事長



本日は、皆さまお忙しいなか、定時総会にご出席を賜り誠にありがとうございます。NUPRIが発足したのは1994年、長野オリンピックの4年前のことでした。オリンピック開催を機に、長野市を中心としたオリンピックゾーンの将来のあるべき姿を研究し、提言・実践する民間組織として鷲澤正一さんを理事長に発足されました。オリンピックに備えて、NUPRIが長野市民や長野市街地の活性化に貢献できた活動として最も意義深かったのは、セントラルスクエアで表彰式を実現させたことでした。表彰式会場を善光寺に近い場所に造ることで、長野市民が自分たちのオリンピックであると感じることができたのではと思います。開会当初こそ盛り上がりには欠けましたが、スピードスケートで清水宏保選手が金メダ

ルを獲った頃から街に人が溢れ出し、長野駅から権堂まで歩くのに1時間半もかかったというエピソードが聞かれるほど全国から大勢の方が訪れ、活気に湧きました。また、2015年には北陸新幹線長野・金沢間開業に合わせてJR東日本と交渉し、長野駅の発着メロディを県歌「信濃国」に変更させたこともNUPRIの歴史のなかで大きな足跡を残した出来事でした。今年、NUPRI設立から実に30年を迎えます。一世代30年といわれ、親から子へ、さらに古い体制から新しい体制へと移行する世代でもあります。30年という節目に組織を改編し、若手会員を増やして、今後ますます地域振興に力を尽くし、貢献していきたいと考えています。

## 部会活動事業報告 令和6年度方針発表

### 産学連携部会

県立大学との連携を強固なものに

掛谷嘉則 理事



この1月に県立大学から7名、講師・NUPRI含めて14名で第1回目の授業・ディスカッションを行いました。企業側から八十二銀行、シューマートが出席され、講演をしていただき、その後ディスカッションを行いました。さらに県立大学の1年生を対象とした授業「象山塾」への組み込みを交渉しています。「企業づくりがまちづくり」との視点で、参加企業のトップが次世代を担う若者と向き合い、学生の思いや考えを知ることが企業発展に繋がるとともにNUPRIの発展に繋がるとの思いをもって取り組んでいます。

### 「まち」掘れ！長野調査隊

長野の隠れた魅力を再発見

竜野泰一 調査隊長



令和5年度は、山城の散策を計画しましたが、グループで行くことは厳しいことが判明し断念しました。その代替として、ながの観光コンベンションビューローの協力を得て、葛山城跡への散策を企画しています。時期は、10月頃を予定しています。

### 「まちの奥見」活動

善光寺周辺を着物でぶらり

鈴木隆治 事務局次長

5月11日に「まちの奥見」と題して、善光寺表参道に沿う大店や寺院にある奥の間や庭園にお邪魔させていただくイベントを開催しました。店主にお店の成り立ちや歴史についてお話を聴きつつ、門前の古き良き時代に思いを馳せました。

着物姿での参加者が多く56名の方が参加され、有意義で盛り上がりを見せた特別な1日でした。

### 中心市街地活性化部会

遊休不動産の活用でまちの賑わいを

倉石智典 理事



今年度も会員間や専門家と話し合いの機会を設けるなかで、行政や長野商工会議所、まちづくり長野等への意見具申や提案を積極的に行っていきたいと考えています。特に権堂エリア活用プロジェクトとして空き家対策への提案を考えていきます。

### 新産業創出部会

収穫祭は、信州観光の楽しみ

竹内伊吉 理事

県外のりんごの木オーナーの方は、「収穫祭」が信州観光の楽しみの一つと



して位置づけられており、観光振興面でも効果が大きいことから今後も継続していきます。おんびら農園では稲作にも力を入れており、「三 watermark」の販売も継続して行う予定です。また、生産者の高齢化、後継者問題等にも直面しており、これらの改善を図るよう努力していきたいと考えています。

### スポーツ振興活動部会

AC長野パルセイロ応援活動  
スポーツが街を元気にする

鷲澤幸一 副理事長



2024年は高木理己監督のもと、「前へ！前へ！」という意識とプレーを掲げ、悲願のJ2昇格を目指して全力で戦っていきます。レディースチームは、廣瀬龍監督のもと、女子プロリーグ「WEリーグ」での上位進出と活躍を期待し、応援していきます。また、長野パルセイロには、UNDEER18のチームがあります。北信越大会で優勝し全国大会に行きます。非常にレベルが上がっており、今後も期待して応援していきたいと考えています。

### ■地域野球クラブ「信越硬式野球クラブ」の応援活動

#### チームスローガンは「常昇」

茂谷浩子 会員



2024年のチームスローガンは、「常昇」です。酒井新監督のもと新人選手8名が加入し、これまで以上に若さ溢れるチームになりました。都市対抗野球大会は地区予選で敗れてしまいましたが、

秋の社会人野球日本選手権大会への出場を目標に、チーム一丸となり猛練習に取り組んでいます。長野市を代表する社会人クラブチームとして、地域社会に愛されるチームであることを目指し活動していきます。

### ■わいがやサロン活動部会

#### 有意義な勉強の場

岩野彰 事務局長

「わいがやサロン」はNUPRIの活動の核であり、既に92回実施しています。今後とも会員の皆さまとの交流機会を増やすとともに、各分野で広範囲に活躍する方々をお呼びし、活発な意見交換を行う

うことでNUPRI活動の参考にし、組織の活性化に繋がりたいと考えています。

### ■講演会開催事業

#### 新たな知を生み出すヒントを得る

鈴木隆治 事務局次長

年2回「公開講演会」を開き、当初の理念でもある地域活性化をテーマにした講師やその時々々の社会情勢等時宜に合った句の講師をお呼びして、長野地域の一般の皆さまにもお声がけを行って開催しています。毎回、大勢の方に参加していただき、NUPRIの「地域貢献活動」の一つとなっており、今後とも継続して行っていく予定です。

### 理事長就任のあいさつ

鷲澤幸一

新理事長にご推薦をいただきまして、誠にありがとうございます。市村理事長のご挨拶にもありましたが、NUPRIが発足したときに私の父が初代理事を務めさせていただきました。そして2001年のことですが、長野市長選挙に立候補することになり、退任させていただきました。選挙期間中、父を応援していただいた方々はたくさんいらっしゃいますが、NUPRIが選挙母体を担ったことは間違いありません。今私も59歳なんです。不思議な縁だと思いますが、理事長にご推薦いただいた時、これは父から背中を押されたのではな

### 祝電

長野市長 荻原健司様より

NPO法人長野都市経営研究所 第30回定時総会のご開催を心からお喜び申し上げます。関係各位の並々ならぬご尽力に敬意を表しますとともに、皆様方の今後ますますのご健勝と一層のご活躍をお祈りいたします。

衆議院議員 若林健太様より

第30回定時総会のご盛会をお慶びとお祝い申し上げます。貴会の今後益々のご発展と、本日ご参会の皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

いか、と思いました。

歴代の理事長には、陰になり日向になりNUPRIを支えていただきました。特に市村理事長はコロナ禍の時代を乗り越え、強力なリーダーシップを発揮してNUPRIを引っ張っていただきました。このようなリーダーシップは私にはありませんが、長野市のため、中心市街地活性化のため、NUPRIの存在価値を高めながら各部会の活動を力強く進めていきたいと思っています。新理事、新役員の方々も若く、新しい体制で元気にやっていきたいと考えていますので、皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



# デザインは 公共のために

講師 デザイナー 水戸岡 鋭治氏

定時総会に続き、水戸岡鋭治氏の講演会が一般公開で開催されました。水戸岡氏は、しなの鉄道の観光列車「ろくもん」をはじめ、JR九州のほとんどの鉄道車両デザイン的第一人者です。現在、小布施町の美術館「北斎館」キッズスペース事業にも関わっており、ますます注目が集まっています。まちづくりに果たすデザインの役割など、地域活性化のヒントにもなる話に一般聴講者も含めて約150名が熱心に聞き入りました。

## デザインは総合的で創造的な計画

私は、岡山県岡山市の吉備津という所にあった祖母の家で生まれました。今でも覚えているのは3歳くらいの時で、ちょうど太平洋戦争が終わって6年ほど経った頃です。吉備津神社の隣にあった生家は、藁葺き屋根に土壁の小さな家でした。父が家具職人だったので、庭に當時としては珍しいテーブルと椅子を並べて、家族みんなで食事をしました。食事といっても隣家からいただいた鶏の卵やヤギの乳くらいなんです。それが本当においしくて、楽しくて、今でもその光景や匂いまで鮮明に覚

えています。人は、感動したことを切り取って思い出に残します。この感動が、私のデザインの原点になっています。

デザインとは、総合的で創造的な計画をすることだと考えていますが、私がデザイン顧問として関わっている小布施町は、それが昔からできていました。ですから、小布施町は、日本で最もまちづくりに成功した町だと私は見えています。そういう意味では、小布施町とのおつきあいは、今でも非常に刺激的です。

これまで、しなの鉄道の観光列車「ろくもん」をはじめ、日本各地の鉄道車両のデザインを手がけてきました。皆さんからよく聞かれるのは「どうしたら、あんな

### 【水戸岡 鋭治氏】プロフィール

1947年、岡山県出身。1972年、ドーンデザイン研究所を設立。建築・鉄道車両・グラフィック・プロダクトなどさまざまなジャンルのデザインを行う。なかでもJR九州の駅舎・車両のデザインは、鉄道ファンの枠を超え広く注目を集め、ブルネル賞、毎日デザイン賞、菊池寛賞を受賞。主なデザイン作品にJR九州の新幹線、クルーズトレイン「ななつ星in九州」、大阪駅「大阪ステーションシティ」、しなの鉄道「ろくもん」、東急「ザ・ロイヤルエクスプレス」、豊島区「IKEBUS」。北斎館キッズルームが今夏オープンした。近著に『水戸岡鋭治デザイン&イラスト図鑑』（玄光社）など。

アイデアが浮かぶのですか？」といったことです。私は、アイデアを自分で一生懸命に考えたという記憶はあまりなくて、仕事仲間や先輩、友達など、いつも他人からいただいています。みんなとコミュニケーションすることを楽しんでいるのであり、そういう中からアイデアが生まれ、方向性が出てきます。デザインとはそうした試みの繰り返しであって、特別に新しいものを創っているわけではありません。それから、私はデザイナーであり、アーティ



## 速いからゆっくりへ 価値を高めるローカル電車

ストとは違います。デザイナーの仕事は、自分の思いを表現することではなく、多くの人の思いや希望を理解して、形に置き換える「代行業のプロ」です。私たちが創るのは、製品でもなく作品でもなく、商品だと考えています。

戦後79年経ちますが、日本は未だに閉塞感があつて、既成概念にとらわれていて新しいものに向かおうという気持ちがないですね。特に今は鉄道会社は赤字路線が多く、列車をどう運営して、どんなふうにお客様にサービスし、どういう将来にするかという考え方にまで至らない。車両を造って終わりではなく、同時に駅のこと、ホームのこと、サービスのこと、そして住民の意識を変えないと活性化できません。個人の意識が大事、それから地域社会の意識のレベル、運営する会社の意識のレベル、その3つが同時に働かないと再生できません。個人の家に豊かなものがなくても、まちに出て公共の場に良いも



のがあれば社会は活性化します。

活性化のもとになるのが、デザインです。利便性と経済性を追求するよりも、楽しいものが活性化の力になります。電車は単なる移動手段ではなく、人々のコミュニケーションが生まれる空間、心地良い空間というのが理想です。そういうことでは、お客様が望んでいるのは速い旅ではないということがわかります。時代は美しいから楽しいへ、速いからゆっくりへと変わってきました。新幹線は時速500kmで走りますが、時速30秒で走るローカル電車も価値は高い。鉄道会社は採算が合わないと言いますが、非常識を常識化することで商品価値が生まれ、それがヒット商品になります。そういう鉄道を繰り返して造ってきたのがJR九州です。

## オンリーワンがナンバーワンに

鉄道会社は、いかに正確に走らせるか、いかにたくさんの人を乗せるかが目的で、楽しい電車なんて考える会社は当時どこにもありませんでした。そういうことを最初に始めたのが、JR九州です。私が鉄道車両のデザインを初めて手がけたのは、1988年。リゾート列車『アークアプレス』を皮切りにJR九州が『D&S（デザイン&ストーリー）』と呼ぶ観光列車のほとんど全てを担当しました。私が車両のプレゼンテーションをするときは、必ず3案を提出します。A案は、今まで誰もやったことがない珍しいデザイン。B案は、現在よりも少しグレードアップしたもの。C案は、従来路線のもの。すると、JR九州ではいつもA案を選んできました。内装には、木材や織物、ガラス細工などを取り入れ、金箔を貼るといふデザインも施しました。漆を塗って日本的な伝統技術を加えたりと、新しく懐かしい、世界に通じる日本独自の車両をつくっています。なかでも『ななつ星』はほとんどのものがオリジナルで、人間国宝の十四代酒井田

柿右衛門さんによる有田焼の洗面鉢をはじめ、星形のネジや専用ドライバーまでつくり、描いたスケッチや図面は1万枚近くになりました。オンリーワンが集まると、ナンバーワンになります。予算はなかったけれど、一人ひとりの職人が丹念な仕事を重ね、最高のクオリティを実現してくれました。

## 即断即決でコストを削減

鉄道車両のデザインをしていると、こんな色は使えない、この形はダメだとか次々にダメ出しが入ることがあ





ります。私は、そうした指摘も楽しむことにしています。「比較しない」「不都合を受け入れる」「対立構造をつくらない」、この3つの言葉が仏教には昔からあって、それを実行するといいいデザインが生まれ、楽しい社会が育まれます。

「理解することと賛同することは別である」という視点も大切にしています。理解することは大事で、多くの人とコミュニケーションを取って理解する。しかし、理解したからといって賛同はできないということと言えるかどうか。なかなか言えないことですね。一般には、理解したら賛同しているということになりがちですが、本当は違います。理解した、でも賛同はしないという自我の確立が大事な時代になると思っています。

公共交通機関である鉄道には、予算や納期などさまざまな制限があります。「予算はないけれど、いいものをつくってね」と言われると、そうそうできませんよと言いつつ、私は試行錯誤しながら考えに考えて解決策を見つけています。たとえば会社で会議をしていて答えが出なかった場合、家に持ち帰って仕事の続きをする人がいます。そんなことをしていて間に合うわけがないんです。

その場でできないということは、存在しないも一緒です。鹿児島島の隼人駅の駅舎の改良を依頼された時でした。この駅舎の前で、JR九州の社長と私と現場の技術者でラ イブ会議を開きました。まさにジャムセッションのように、その場で即決で終わらせるといふ会議でした。そこは昔から竹の文化が発展してきた所で、それでは竹を使おうということになり、それで議論が終わりました。普通、改修工事では500万円、1000万円の予算がかかりますが、すばやく意思決定を行い、即座にとりかかれればコストは3分の1で済みます。

### 誰もやっていたくないことに挑戦する

皆さんもよくご存知のしなの鉄道の観光列車「ろくもん」は、長野県産の木材をふんだんに使った、快適でぬくもりのある空間が特徴です。障子で仕切った個室は高級感があり、車両の横幅は四畳半の長さとはほぼ同じで狭さを感じさせません。

こちらは、JR九州が運航する高速船「BEETLE」です。このジェットフォイルを見て、カブトムシみたいな形だということで、それなら真っ黒に塗りましょうと提案しました。社内では9割が反対だったようですが、社長が「水戸岡さん、面白いからやろう」と言ってくれました。次に海外まで運航することになって、真っ黒では危ないので色を塗り替えてほしいという依頼がきました。そこでクイーン・エリザベス号を参考に、黒、白、赤の3色に塗り替えました。昔から船の色は黒、白、赤でそれが一番オーソドックスで美しいのです。

こちらは、和歌山の貴志川線の「たま電車」です。ここには三毛猫の「たま」がいて、猫駅長として全国的に有名になりました。車中は、全て三毛猫の3色からできています。そして、床から何から猫だらけです。この電車で日本中から猫好きが集まってきました。たま駅長が頑

張っているということで、ご褒美に駅舎をつくってあげようということになり、「たま駅舎」もつくりました。猫の目があつて鼻があつて、耳もある。屋根は、檜皮葺です。予算が少なかつたのですが、高野山の檜皮葺職人がやりたいと言つて、半額でやってくれました。

まちづくりには、地元の方々の高いレベルの意識と応援が欠かせません。長野には、豊かな自然とともに文化があります。ぜひ皆さんが頑張つて、日本一の素晴らしいまちにしてください。

